

平成 26 年 6 月 2 日	病虫害発生予報 6 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
--------------------	-------------------------------	------------------------

平成 26 年度茨城県農薬危害防止運動期間が始まります (6/15～9/14)
～薬剤散布時には周辺作物等へ飛散しないよう十分注意しましょう～

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稲：ニカメイガ	1
ナシ：黒星病	1
ナシ：アブラムシ類，ナシヒメシンクイ	2
[防除所レポート]：ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの成虫誘殺ピークと防除適期の予測	3
果樹共通：チャバネアオカメムシ	4
半促成ピーマン：うどんこ病	4
半促成ピーマン：アザミウマ類	5
夏ネギ：ネギアザミウマ	5
【その他の病虫害】	
水稲，ブドウ，半促成ピーマン，夏ネギ	6
水稲いもち病の防除について	6
[防除所レポート]：コムギ赤かび病の発生状況と今後の対策について	7
[防除所レポート]：ウメ輪紋ウイルスについて	8
II. 今月の気象予報	9
<p>水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を1週間程度とすること。</p> <p>最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p>茨城県病虫害防除所 Tel : 029-227-2445</p> <p>予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p>ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺時期は、水戸市、筑西市、龍ヶ崎市で平年よりやや早い。また、フェロモントラップにおける誘殺数は、水戸市、筑西市で平年より多く、龍ヶ崎市で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本虫の発生は、局地的に増加している。近年発生が目立つ地域では第一世代幼虫を対象に薬剤防除を6月中旬に実施する。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病葉率は平年よりやや少なく（本年値0.1%、平年値0.2%）、発病果率は平年並である（本年値0.2%、平年値0.2%）。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多いと予想され、発生を特に助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 効果的に防除するためには、二次伝染源の除去が重要であり、発病した葉及び果実は見つけ次第除去し、園外に持ち出して土中深く埋める等適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

2. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在, 寄生新梢率(本年値 9.4%, 平年値 2.4%), 発生地点率(本年値 70%, 平年値 37%)ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシ類は, 特に新梢を加害し, 多発するとすす病の発生原因となるため, 早期に防除を徹底する。
- ② 薬剤は, 10a 当たり 300 リットルを目安に, 新梢に薬液がかかるよう丁寧に散布する。圃場の周縁部等, 薬液のかかりにくい部分に対しては, 手散布等により補正散布を行う。

3. ナシヒメシンクイ (第二世代幼虫)

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並～やや早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在, 第一世代成虫の発生時期は, 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から, 平年並～やや早いと予測できる。
- ② 5月第5半旬現在, 県予察圃(笠間市)に設置したフェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は平年より多く, 総誘殺数は過去 11 年中 2 位である。また, 地区予察圃(小美玉市, 笠間市, かすみがうら市)及び土浦市に設置したフェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は, 平年よりやや多い～多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後, 第二世代幼虫が発生するため, 参考防除例を参考に適期防除に努める。防除適期については, 次ページの防除所レポートを参照する。
- ② 薬剤は, 10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等, 薬液のかかりにくい部分に対しては, 手散布等により補正散布を行う。

ナシヒメシクイのフェロモントラップへの成虫誘殺ピークと防除適期の予測

ナシヒメシクイのフェロモントラップへの各世代の成虫誘殺ピーク(雄)は、その前の世代の成虫誘殺ピークから有効積算温度 384 日度(発育下限温度 11.1℃, 発育上限温度 28℃)に達した時点に出現する。また、各世代の成虫誘殺ピークから、防除対象である幼虫の防除適期を表 1 のように予測できる。

病害虫防除所では、県内各地点においてフェロモントラップ誘殺消長調査を行っており、各世代の誘殺ピークを把握している。県予察圃(笠間市)における本年の越冬世代成虫の誘殺ピークは、4 月第 2 半旬であった(図)。この誘殺ピークを基点として予測すると、第一世代成虫(次世代)の誘殺ピークは 6 月 14~15 日、第二世代幼虫を対象とした防除適期は 6 月 21~24 日となる。

なお、上記と同様に、各地点のフェロモントラップへの誘殺状況から第二世代幼虫の防除適期を予測した結果を表 2 に示す。予測した防除適期は、5 月 29 日現在のデータであるため、今後発表する最新情報を参考にする。

表1 フェロモントラップへの成虫誘殺ピークから予測される幼虫の防除適期

対象	防除適期
第一世代幼虫	越冬世代成虫誘殺ピークより12~22日後
第二世代幼虫	第一世代成虫誘殺ピークより7~9日後
第三世代以降幼虫	第二世代以降成虫誘殺ピークの直後

(「植物防疫特別増刊号(No. 13) フェロモンによる発生予察法」より引用)

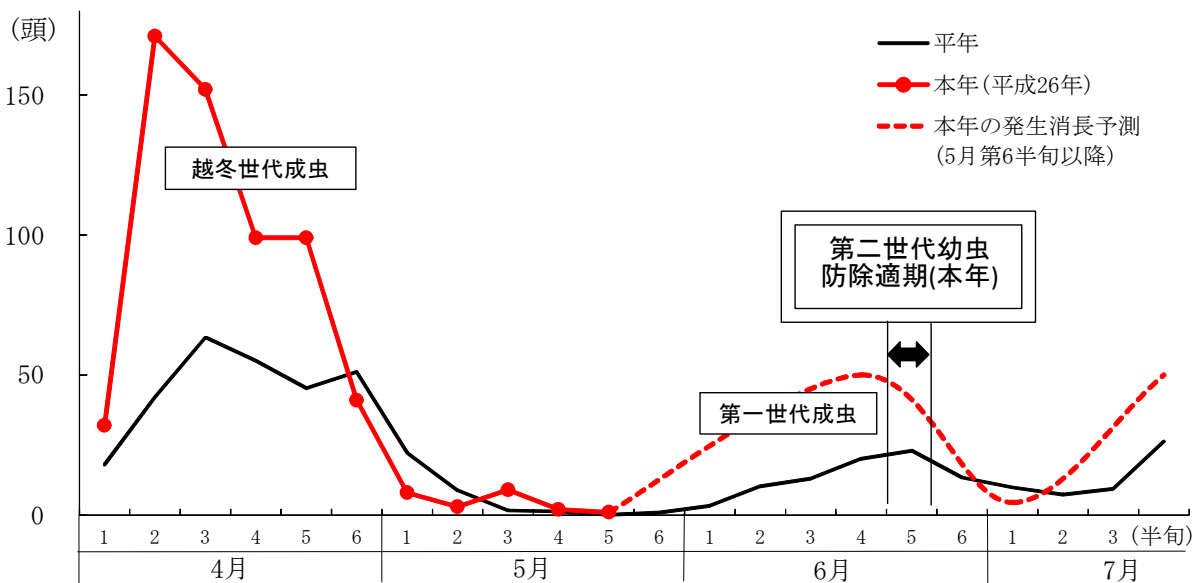


図 フェロモントラップによるナシヒメシクイ成虫誘殺数の推移および防除適期(笠間市)

表2 調査圃場におけるナシヒメシクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測される防除適期 ¹⁾		
茨城町	6月22日	~	6月25日
笠間市(旧友部町)	6月26日	~	6月30日
笠間市(旧岩間町)	6月21日	~	6月24日
小美玉市	6月25日	~	6月28日
かすみがうら市	6月18日	~	6月20日
土浦市	6月25日	~	6月29日
筑西市	6月20日	~	6月23日

1) 予測した第一世代成虫の誘殺ピークの7~9日後とした。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第5半旬現在、果樹園に設置した予察灯への誘殺数は、笠間市およびかすみがうら市で平年より多い(過去11年中1位)。
- ② 5月下旬現在、叩き落とし調査におけるサクラでの成虫の生息数は、平年より多い。
- ③ 本年2月上旬の越冬量調査における成虫の越冬数は平年よりやや多く、越冬地点率は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多目的防災網(目合い6mmまたは9mmクロス以下)はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるため、果樹園への飛来に注意する。果樹園への飛来が多い場合は、薬剤防除を行う。

(平成26年5月28日発表 病害虫発生予察注意報第1号参照)

半促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度*は平年より高く(本年値22.8, 平年値6.2)、発生地点率は平年よりやや高い。
- ② 天敵を導入しているハウスで発病を認めている。
※発病度: 病斑をもとに算出した数値, 最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

(半促成ピーマン 続き)

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、寄生花率は平年より高く（本年値 90.5%，平年値 45.8%），発生地点率は平年よりやや高い。
- ② 5月下旬現在、被害果率（本年値 4.8%，平年値 2.1%），発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

（平成 26 年 5 月 9 日発表 病害虫速報 No. 2 参照）

夏ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、被害度^{*}（本年値 28.4，平年値 19.6），芯葉の被害株率（本年値 72.5%，平年値 42.8%）ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴い増殖が速くなる。多発生すると防除が困難となるので適期防除に努める。
- ② 発生源となる圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、薬剤を散布する際は、収穫前日数に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。曇雨天が続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の発生が多く, 食害がひどく目立つ場合は防除を行う。
	イネミズゾウムシ	発生量: 平年並	5月下旬現在, 成虫の発生量は平年並である。イネの初期生育が遅い水田, 育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
ブドウ	灰色かび病	発生量: 平年並 ～やや多い	5月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
	べと病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
ピーマン 半促成	斑点病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
夏ネギ	べと病	発生量: 少ない	5月下旬現在, 平年よりやや少ない発生である。向こう1か月の日照時間は平年より多く, 降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件ではない。
	ネギハモグリバエ	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。向こう1か月の気温は平年より高く, 降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
	アブラムシ類	発生量: 平年並 ～やや多い	5月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。

水稲いもち病の防除について

[現在の状況]

5月下旬現在, 置苗での本病の発生は, 例年どおり認められない。

[発生好適条件]

気温 20～25℃で, 弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のとき。一般的に6月の高温多湿, 7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため, 速やかに本田から持ち出して埋める等処分する。
- ② 常発地で, 育苗箱施用剤を使用していない水田では, 特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので, 適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には, 中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

ウメ輪紋ウイルスについて

ウメ輪紋ウイルス（プラムポックスウイルス、以下「PPV」という）は、ウメ、モモ、アンズ、ユスラウメなどに感染する植物ウイルスです。

国内では、平成21年に東京都青梅市で発見されて以降、これまで10都府県において発生が確認されています。特に、地域的な発生の広がりがある東京都や大阪府、兵庫県の13市町では、国の緊急防除を行う区域（以下防除区域）に指定され、PPVの封じ込め及び根絶に向けた防除が実施されています。

県内においては、平成21年に水戸市、平成23年に古河市のそれぞれの公園で発生が確認され、防除区域に準じて防除対策ならびに発生監視調査を行っています。さらに、県内の生産園や公園についても、発生の有無を毎年調査しています。

また、PPVの発生地域から、PPVに感染した恐れのある観賞用のウメ、モモの鉢植・苗木が全国へ出荷されたことが確認されました。このため、PPVの早期発見と根絶のためにも、感染しうる植物を栽培している方々からの情報提供についてご協力をお願いしています。

なお、本病害の詳細については、病虫害防除所ホームページ内「侵入警戒を要する病害虫について」をご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

<特徴>

- ① ヨーロッパでは、果実が収穫前に落果したり、収穫できても商品にならなかつたりといった被害が出ており、生産に大きなダメージを与えています。
- ② PPVは、アブラムシ類により媒介されるほか、感染樹を穂木や苗として使用することにより広がります。種子や果実から他の樹に感染することはありません。
- ③ ウメでは、葉にドーナツ状の輪ができる症状（輪紋）などが生じます。ウメ以外の植物（モモなど）では、明瞭な輪紋は生じませんが、葉脈に沿って緑色の薄い部分ができる症状（退緑斑紋）が生じます。症状は、新葉の時期（春に出た葉が開いた頃）が一番明瞭ですが、モモは、葉が硬化すると症状が消えることがあります。
- ④ PPVは、人には感染しないので、果実を食べても健康に影響はありません。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月31日から6月30日)

気象庁(5月29日発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	40	50
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

期間のはじめは, 気温がかなり高くなる見込みです。

<1週目の予報> 5月31日(土曜日)から6月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率70%

<2週目の予報> 6月7日(土曜日)から6月13日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 6月14日(土曜日)から6月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。